

第1回研修会報告

1 日 時 令和5年5月24日(水) 15:00~16:30

2 場 所 浜松市立庄内小・中学校

3 内 容

(1) 顧問校長挨拶 庄内小・中学校 石田直美校長先生

- ・全国学力・学習状況調査の子供たちからのアンケート結果は、教師に突き付けられた命題でもある。教師自身も「国語の学習が好きで、将来に役に立つ」と思って授業に取り組むことが大切。
- ・教材研究と児童理解を結び付け、授業として具現化するのが教師のプロたる所以。そのための時間をどのようにして生み出すか、考え実行していくことが必要。

(2) グループワーク

【言葉の力を育てる魅力的な単元の創造】を具現化するための、授業の在り方

☆重点「②単元の中に、子供たちが主体的な学びを調整できる場面を設定すること。」

〈小学校低学年代表〉

- ・交流を通して、自分の考えに自信を持つとともに、友達の考えを取り入れ、考えを深める。
→2年生段階での「学びの調整」
- ・どう見取るか…学習計画入り振り返りカードに毎時間記入することで子供たちの学びの変容が分かる。
課題…文章での表現力に差がある←書いている子たちの文章を紹介し、書き方を学べるようにする。
- ・「お話を読んでしょうかいしよう スイミー」で上記の実践を行い、学びを調整する力を見る。

〈小学校高学年代表〉

- ・対話による調整…自分の意見の変容、深化を通して、「話し合いをしてよかったな」「国語って大切だな」と思えることが大切。
- ・振り返りの視点を明確にする…U(うまくいったこと)、N(直したいこと)、D(だからどうする)
- ・「みんなが過ごしやすい町へ」で、テーマの調べ方を考えたり、レポートを推敲する学習を通して、学びを調整する力を見る。

〈中学校代表〉

- ・主体的に学びを調整する姿…思考の変容を子供自身が自覚できる。(教師も見取ることができる)
…自分で問い(課題)を立てて、解決する。
…子供たち自身が教材と繋がる=実生活に生きる、考え方に影響を与える
- ・「俳句の可能性」で、課題をもとに変容していく自分の意見を子供たち自身でまとめ、可視化する学習を試みる。

(3) 指導講評 顧問校長 入野小学校 伊藤真理校長先生

- ・どの教科でも子供の「学びを調整する姿」は見えにくい。子供たちの調べ、まとめ、伝える力を育てることで、学びの記録や表現、変容から見取れるようになる。その力を育てる国語科は、とても重要な教科である。

